別紙

出張ちば会議@幕張　ゲストスピーカープロフィール

 ログ・アトリエ 上田　洋子　氏	1995 年に幕張の地で絵画教室をオープンさせてから 40 年。代表を務める上田洋子さんは、前身のアート教室から数えて、かれこれ半世紀もの間、アートを通じて子どもたちの個性や可能性をひらく活動にその情熱を注いできました。 美大を出た後、ご家族の転勤に伴って、行く先々で教室を開いてきた上田さん。引越しの度に生徒さんたちとの別れは寂しいものだったと言いますが、幕張に家を構えてから、どっぷりこの地に根を生やすことになります。 3 世代に渡って利用する方もいらっしゃる他、市外から遠く通ってくるお子さんもいるログ・アトリエですが、大切にしているのは、人と人とのふれあいと、子どもたちに本物の体験をしてもらうこと。本格的な高価な画材を用意しては、みんなでそれを大切に使い、また、工業用ミシンや大型プレス機などの機械を積極的に導入して、工作キットなどは使わずに、ゼロから創作する醍醐味を体験できる環境を整えています。 子どもたちやその家族にとって、ログ・アトリエは、学校でもない、家でもない、第二の家庭のような存在。100 人規模でみんなで遠足に出かけたり、その活動を慕って、離れてもたまにやりとりがあったりするところも、ログ・アトリエらしい姿なのかもしれません。 毎年開催する展覧会ですが、昨年のテーマは 150 人 150 色。子どもも大人も関係なく、それぞれの個性を認め合いながら、上田さんと仲間たちの挑戦は続きます。今回の「出張！ちば会議@幕張」では、ログ・アトリエ代表の上田洋子さんに、ログ・アトリエの活動と、そこに込めた想いについてお話しいただきます。
 本屋 lighthouse 関口　竜平　氏	売れ筋の本は大手の書店で買えばいい――――。本屋 lighthouse は、誰かの拠り所となるようなお店を目指して、2018 年その活動をスタートさせました。 以前は小さな小屋でお店を構えていましたが、2021 年 1 月に今の場所に移転。店主の関口竜平さんにとって幕張は、小さい頃から慣れ親しみ、「暮らしやすい」と思っていたまちでしたが、どこか「文化的なものが足りない」と、本屋としてできることを追い求めています。その選書は、社会全体の規範を照らし、こんな視点や考え方もあるんだと気づかせてくれるラインナップ。小さなトークイベントや対話の場も行われたり、子どもたちが月に 1 冊好きな本を無料で買える「こども読書ちょきん」を運用したりと、様々な”実験”がこの場所で繰り返されています。 lighthouse（灯台）という店名は、当時読んでいた灯台守の話がきっかけだったと言いますが、オープン当初に通ってくれた小学生が、大学生になって「気になる本が増えました」と語ってくれたのは嬉しい体験の一つで、その光を求めて、目指してくれる人がいることに喜びを感じて、今日も営業を続けています。「本屋は社会を変えることとつながっている、幸運な職種なんです」と語る、関口さん。「出張！ちば会議@幕張」では、本屋 lighthouse 店主の関口竜平さんに、lighthouse に込めたその想いと、これまでのストーリーについてお話しいただきます。

別紙

出張ちば会議@幕張　ゲストスピーカープロフィール

美容室 Lady Bird
千羽　浩司　氏

たまたま通りがかった幕張のまちが「なんかいいな」と思って出店したのが 18 年前。まもなく 20 周年を迎える美容室 Lady Bird のオーナーである千羽浩司さんは、幕張の地に自分の原点を感じて、”アットホーム”な店づくりを進めてきました。
祖母から美容師としての生き様を学び、両親からまちで親しまれる”敷居の低い”美容室のあり方を学んできたという千羽さんが目指すのは、アットホームでありながらも、技術を妥協せず、フレッシュさを保ち続ける美容室の姿。カリスマ美容師に憧れた時期もあったと言いますが、時に店内がうるさくなるくらいにお客さんと日常会話で盛り上がるのも、誰かが道を通り過ぎれば店内から笑顔で手を振るのも、そこに千羽さんの”原点”があるからなのかもしれません。
刺激を入れ続けることを忘れないという千羽さんはグッドネイバーズスクール@ちばにも参加。お店の内側から息吹が湧き出て、感じてもらえるような場所を目指して、今日もスタッフと共に店に立っています。
まだまだ続く、親しまれながら、尚かつ新鮮さを失わない、美容室としての挑戦。代々美容師の家に生まれた千羽さんの進化は続きます。今回の「出張！ちば会議@幕張」では、美容室 Lady Bird オーナーの千羽浩司さんに、Lady Bird が大切にしている世界観と、幕張のまちとの関わりについてお話しいただきます。